

## 報 告

## 第 69 回通常総会・第 107 回講演大会記事

昭和 59 年 4 月 1 日第 69 回通常総会、名誉会員推挙式、表彰式、特別講演会が、また 4 月 1 日、2 日、3 日の 3 日間第 107 回講演大会がいずれも千葉工業大学(千葉県習志野市津田沼 2-17-1) で開催された。

## 第 69 回通常総会

第 69 回通常総会は松下会長が議長となり、木下本会専務理事司会のもと、4 月 1 日 9 時より千葉工業大学 4 号館 435 号教室で開催された。冒頭に松下会長の挨拶が行われた。

「この度、本会の春季大会としてははじめて、当千葉工業大学関係各位の絶大なご好意によりまして、本学を会場として使用できましたことは、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

つきましては、名実ともに当協会の名にふさわしい学術講演会が実施されるよう願っております。

さて、当協会の創立は 69 年前の大正 4 年 2 月であり、当時なお黎明期にあつたわが国の鉄鋼業およびその技術を育成伸長させることを目的に、野呂景義、今泉嘉一郎、香村小録、服部漸、俵国一諸先生らの志を同じくする卓越した大先覚者の計らいで誕生した経緯があります。

すなわち、その定款が示すように、当協会の目的とするところは、「鉄および鋼に関する学術、技術そのほか一切の問題を研究調査し、わが国における鉄鋼業の振興発達を期する」ことであります。幸いにして、その当初の趣旨は幾多の勝れた後継者によつて受け継がれ、その間終始一貫して、当協会はわが国の鉄鋼業と共に歩み続け、数々の苦難を克服して今日の隆盛を見るに至りました。

このようにして育成された当協会の 70 年に垂んとする輝かしい伝統は、誠に同慶の至りではあります、今日のわが国の鉄鋼業を回る極めて厳しい内外の情勢を考えますと、世に言う「重厚長大」の論議を俊つまでもなく、その将来の姿に向け更に新しい貢献の道を探らねばならないと思われまふ。このような観点で、今回の講演大会発表論文を眺めると、一般講演 721 件および討論会講演 5 テーマ 32 件を通じ、上工程から製品に至る各分野ごとに、裾野の多彩な拡がりが見られると共に、鉄鋼に拘わる工学の体系化が目覚ましく進展していることが窺えます。私は、このような幅広い階層に亘る会員諸兄の旺盛な研究意欲に支えられて、当協会が「鉄の新しい時代」に必ずや貢献できると確信致します。

上述の趣旨に則り当協会が鉄鋼業および鉄鋼の学術と技術の発展に大きな役割を果たしておりますことはご同慶にたえません。

本日は、この総会の後、名誉会員推挙式において Donald・Johnson・ブリックウェイド殿と田畑新太郎殿のご両人を本会名誉会員にご推挙申し上げることになっております。なお引き続き、ご案内のようにブリックウェイド博士には、「薄板製品のニューラック」と題する湯川記念講演をお願いしてございます。ここで付言させて

頂きますと、アメリカ金属学会 (ASM) 現会長ブリックウェイド博士、ならびに同学会主席専務理事、本会名誉会員アラン・レイ・パトナム殿のご推薦により、わが国の洋式高炉発祥の地として知られる史跡橋野高炉跡が ASM ヒストリカル・ランドマークとして指定されることになっております。

また、同じく総会の後、渡辺義介賞、西山賞をはじめとする各賞の表彰式が行われ、館野万吉博士および川合保治博士には、それぞれ渡辺義介賞、西山賞受賞記念講演をお願いしてございますが、新名誉会員ならびに各賞受賞者のご業績に心から敬意を表しお祝い申し上げますと共に今後もいつそのご研鑽、ご活躍を願うものであります。

終わりに、私をはじめ半数の理事および監事はこの総会をもつて任期満了となりますが、就任以来二年間、諸先輩はじめ会員諸兄の絶大なご支援を頂き、微力ながら本会の発展に些かたりとも貢献できたとすれば、幸いこれに過ぎるものはありません。私共一同、当協会が明春の創立七十周年に向け、なおいっそう発展するよう心から願うものであります。

以上挨拶が行われた後、総会の議事に入った。付議された案件は次のとおりである。

議案第 1 号 昭和 58 年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件

議案第 2 号 昭和 59 年度事業計画ならびに収支予算の件

議案第 3 号 理事、監事ならびに評議員選挙の件

初めに議事進行上、議案第 3 号から始められた。

選挙管理委員に藤井資也君(新日鉄)、吉松史郎君(金材研)を選び投票が行われ、別室において開票に入った。続いて議案第 1 号ならびに第 2 号が関連しているので一括議題として事業と会計に分けられた。

昭和 58 年度事業ならびに昭和 59 年度事業計画について佐伯理事(企画委員長)より次の報告がなされた。

## 【講演大会・出版事業】

講演大会は春は東京、秋は秋田においてそれぞれ三日間の会期をもつて開催し、講演発表は、1,581 件を数えた。昭和 59 年度秋の大会は広島にて開催を予定している。

次に、和文会誌「鉄と鋼」は昭和 58 年度も普通号 12 冊と講演概要集 4 冊合せて 16 冊発行した。

内容は会員諸兄の意向を反映させ、技術資料・解説記事等の充実を図る一方、一論文あたりのページ数を 8 ページ以内に制限したことによつて掲載論文数がかかなり増加した。

また明年は創立 70 周年を迎えるので最近 10 年間の鉄鋼技術の進歩を展望する記念特集号を発行することとして鋭意編集作業を進めている。

また欧文会誌「トランザクションズ ISIJ」は優れた研究論文、技術資料のほか春秋の講演の概要を掲載する一方、58 年度は、日本の鉄鋼生産技術等を海外へ紹介する「ニューテクノロジー」の欄を設けるなどいつそ

うの充実を図った。この結果外国会員をはじめ海外の読者も増えつつある。

#### 【技術講座・工学セミナー】

西山記念技術講座は鉄鋼業における最も新しい学術技術をテーマとして行われており 58 年度は東京・大阪・室蘭の各地において計 9 回開催した。

さらに、白石記念講座は鉄鋼業の進歩に貢献する関連技術の中からテーマを選び 58 年度は「耐火物について」をテーマとして東京、岡山で開催した。

鉄鋼工学セミナーは生涯教育の一環として講師と受講者が一週間にわたり寝食を共にして行っており 58 年度は、129 名の参加者があり好評を得た。

昭和 59 年度は技術講座、鉄鋼工学セミナーとも前年度と同規模で開催予定をしているが、西山記念技術講座は昭和 43 年に第 1 回を開催して以来本年 11 月には第 100 回を数えますので神戸市の西山記念会館で「攪拌を利用した最近の製鋼技術の動向」をテーマとして第 100 回記念西山技術講座を計画した。

#### 【表彰関係】

従来、三島賞ならびに林賞の表彰は 2 年ごとに行っていたが 58 年度から毎年行うことになった。

また若い研究者が優れた論文を海外の国際研究集会に発表することを奨励する「日向方斉学術振興交付金」について、58 年度に 5 名に交付するほか昭和 59 年度分として、10 名を選考した。

#### 【調査研究事業等】

共同研究会は、鉄鋼技術全般にわたる現場的立場からの研究と情報交流を 18 部会の構成により行っており参加各社への寄与は大きなものがあると考えられる。

とくに 58 年度は、第 1 回耐火物国際会議の東京開催を契機にドイツ鉄鋼協会耐火物部会との交流が開始された。

次に標準化委員会は JIS 原案の作成、当協会規格案の作成、鋼材特性に関する各種データシートの作成、ISO 規格の日本側意見のとりまとめ等幅広い活動を行っているが、とくに本年 10 月には、パイプに関する三つの ISO の国際会議を東京で開催する予定である。

また鉄鋼標準試料委員会は化学分析用・機器分析用等合わせて 353 種にのぼる標準試料を製造頒布し国内外の鉄鋼分析技術の向上に努めている。

とくに 58 年度は高純度鉄等 5 品種を新たに製造し、29 品種を更新製造した。

昭和 59 年度には新規 3 種、更新 22 種の試料の製造を予定している。

また、鉄鋼基礎共同研究会につきましては 58 年度をもって、「鋼材の摩耗部会」「介在物の形態制御部会」の 2 部会が終了し 59 年度からは「高純度鋼部会」「鉄鋼の急速凝固部会」の 2 部会が新たに発足する予定である。

このほか、新規の委員会といたしましては、58 年 4 月に熱延プロセス研究委員会が、また 59 年 3 月からは低炭素鋼板研究委員会が発足した。

#### 【国際交流】

58 年度は 2 国間シンポジウムとして 6 月にソ連へ、9 月にはチェコスロバキアへ代表団を派遣し、また 10

月にはオーストラリアから、11 月には中国からそれぞれ代表団を迎えシンポジウムを開催し多大の成果を収めた。

昭和 59 年度はドイツとの 2 国間シンポジウムを 5 月に東京で開催する予定になっている。また 60 年 9 月には第 3 回延滞国際会議の東京開催が予定されており、その準備に着手した。

#### 【情報事業】

鉄鋼技術情報活動は従来どおり金属関係文献を抄録し検索システムへの入力作業を行うとともに端末機によるシステムの利用と普及に努めた。

このほか機関誌「鉄鋼技術総覧」の発行と各種国際会議のプロシーディングスおよび数値データ集の収集を行った。とくに 58 年度は会誌「鉄と鋼」バックナンバーのロールフィルムを作成し頒布を開始した。

#### 【ISO 関係】

ISO 幹事国業務につきましては、従来 TC17 および同 SCI が各々独立して運営してきたが、58 年 4 月からはこれを統合し、1 つの運営委員会のもとに一本化した ISO 事務局が推進することとした。

昭和 59 年度は TC17 EC 会議および SCI 会議を主催することになっている。

最後に、松下会長の強い要望によつて、つい最近「会員増強対策」の一つの試みを実施した。

つづいて会計報告ならびに予算案の説明が壽崎理事よりなされた。

#### （決 算）

一般会計決算の結果、収入は 9 億 1,798 万 2,878 円となつた。本年度は会費収入をはじめ刊行事業、国際集會事業、情報事業、鉄鋼標準試料等の増収があり、収入予算に対し 3,964 万 5,624 円の増収となつた。

一方、支出の部における決算の結果は、刊行事業、調査研究事業、国際集會事業等の節約ができたので、創立 70 周年記念事業積立金および国際会議積立金の積み増しを含め支出総額は、8 億 6,818 万 7,449 円となつた。これは、予算に対し 1,014 万 9,805 円の支出減である。

この結果当期剰余金 4,979 万 5,429 円をもつて昭和 58 年度を終了した。

#### （剰余金処分）

次に剰余金の処分ですが、その全額即ち 4,979 万 5,429 円を次年度に繰越し、昭和 59 年度財政を充実したく提案したい。

#### （財産目録）

決算の結果、昭和 58 年度末現在の一般会計保有の純財産は、3 億 2,412 万 1,613 円である。

#### （別途資金会計）

別途資金会計は表彰ならびに事業資金ほか 15 の会計を有しており、それぞれの目的に応じ特別資金運営委員会、理事会の議を経て支出し、または蓄積されている。これら別途資金会計の収支決算および期末保有の財産は別紙に示す通りである。

#### （補助金事業等会計）

12 の特別会計を有し、補助金、委託金あるいは他団体の分担金等により運営しており、ISO 幹事国業務会

計, 高級ラインパイプ研究会計をはじめいずれも充実した事業を行つている。

(予 算)

続きまして昭和 59 年度収支予算は, 一般会計では, 昭和 59 年度も大変厳しい予算編成方針のもとに編成した。収入の部では, 前期繰越金を含め総額 8 億 8,256 万 4,429 円を計上した。これは, 個人会員増加を予定した会費収入, 技術情報事業収入, 鉄鋼標準試料等の増収を見込んだものである。

一方, 支出の部においては, 刊行事業費では, 和文会誌を本年度も 16 冊, 欧文会誌 12 冊, 特別報告書類 3 点および創立 70 周年記念会誌の発行費を計上した。

さらに, 調査研究事業費については, 低炭素鋼板研究委員会発足に伴う予算増のほかは, おおむね継続事業であり, 内容の充実に重点をおき, 極力節約を計つて予備費を含め 8 億 8,256 万 4,429 円を計上した。

(別途資金会計)

別途資金会計の予算は例年通り特別資金運営委員会および理事会の議を経て事業計画のもとに編成した。

本年度は, 日方向学術振興資金による事業が本格化したので交付金 10 名分を予算化したが, そのほかはおおむね従来どおりである。

(補助金事業等会計)

ほとんど継続事業であり, ISO 幹事国業務会計ならびに高級ラインパイプ研究会計等を予算化している。

以上議案説明の後, 阿部芳平監事より監査報告がなされ, 満場一致をもつて議案第 1, 2 号が承認された。引き続き先に行われた選挙の開票が終わり選挙管理委員より候補者はいずれも絶対多数で当選された旨報告された。ここで会長, 副会長, 専務理事, 常務理事を互選するため臨時理事会が開催され, 会長に石原重利君(新任)副会長に川合保治君(新任), 上杉平一君(留任), 専務理事に木下亨君(留任), 常務理事三井太信君(再任)が互選され, 石原新会長の就任挨拶(鉄と鋼, 7号(5月号)掲載)の後, 通常総会が終了した。

**名誉会員推挙式** 新名誉会員に次の二氏が推挙された。

田畑新太郎君(日本科学技術情報センター理事長, 前日本鉄鋼協会専務理事)

Dr. D. J. Blickwede (ASM 会長, 元 Bethlehem Steel Corp. 副社長)

**表彰式** 続いて表彰式に移り, 下記のとおり各賞の授与式が行われた。

渡 辺 義 介 賞	館野 万吉君		
西 山 賞	川合 保治君		
服 部 賞	栗田 満信君	山本 全作君	
香 村 賞	豊島 陽三君	水内 通君	
渡 辺 三 郎 賞	上野 學君	佐伯 達夫君	
俄 論 文 賞			

宮下 恒雄君	吉越 英之君	松井 正治君
田島 治君	福与 寛君	竹内 栄一君
藤井 博務君	大橋 徹郎君	丹野 仁君
高尾 滋良君	古垣 一成君	喜多村治雄君
森田善一郎君	田中 敏宏君	吉田 博君
佐々木 徹君	近藤 信行君	田中 智夫君

橋本 隆文君	安彦 兼次君	鈴木 茂君
木村 宏君		

**渡辺義介記念賞**

飯島 健一君	石川 泰君	河内 昭太君
岸田 民也君	栗原 淳作君	杉田 清君
高井 慶和君	長 昭二君	永田 泰郎君
中西 成美君	梨和 甫君	松原 博義君
安田 達君	矢部 茂慶君	吉ヶ江 昇君

**西山記念賞**

青木 孝夫君	伊藤 庸君	伊藤 洋一君
梶岡 博幸君	川上 正博君	國岡 計夫君
小久保一郎君	雀部 実君	柴田 俊夫君
田中 紘一君	本間 亮介君	三村 宏君
森谷 尚玄君	諸石 大司君	湯浅 悟郎君

**特別講演会** 表彰式につづいて次の表彰記念特別講演会が行われた。

1. 湯川記念講演

「The New Look of Sheet Steels」

Dr. D. J. Blickwede

2. 受賞記念講演

「大型高品質鋼の開発と素材の新しい使命」

渡辺義介賞受賞 館野万吉君

「溶鉄-スラグ間の反応速度に関する基礎的研究」

西山賞受賞 川合保治君

**講演大会**

講演大会は4月1日, 2日, 3日の3日間千葉工業大学4号館で開催された。

**講演大会** 講演数は製鉄関係 118 題, 製鋼関係 164 題, 加工・システム 178 題, 材料 240 題, 分析 21 題, 計 721 題が 17 会場にわかれ, 講演ならびに討議が活発に行われた。

なお, 164 「The Characteristics of Agitated Mixing of Mechanical Stirring Vessel Investigated by Water Model Test」 Shanghai Univ. of Tech. Ye Yuzhong は欠講となつた。

**討論会** 上記講演の他, 次のテーマの討論会が行われた。

- 鉄鉱石類の高温における還元・熔融機構  
座長 相馬胤和 副座長 斧 勝也
- 合金鋼製鋼技術  
座長 湯浅悟郎 副座長 松永 久
- 合金鋼の薄板圧延技術 座長 日下部 俊
- 自動車用鋼板の耐食性評価 座長 北山 実
- 粒界・再結晶 座長 古林 英一

**懇親会** 懇親会は4月1日午後6時よりサンペデック(沼志野市)で日本金属学会と共同開催された。岡田厚生千葉工業大学教授司会のもと石原新会長, 井垣日本金属学会会長, 福井千葉工大理事長, 新名誉会員 D. J. Blickwede 氏の挨拶の後, 武田本会前会長の乾盃で始まり, 参加会員の間で歓談がくりひろげられた。参加者は 300 名であつた。

**ジュニアパーティー** 4月2日午後5時40分より千葉工業大学4号館地下1階食堂で開催され, 若手技術者, 研究者を中心に懇談がなされ親交を深めた。参加者 198 名。